

第2回をふりかえろう！ 林先生から教えてもらったこと

子どもの権利って、むずかしい言葉だけど、
実はわたしたちの毎日の中にあるものでした。

権利 = みんなが大切にされるための“当たり前”



- ① 子どもも「一人の人」として大切
子どもだから「半人前」ではない。
何歳でも、一人ひとりが大切な宮古島の市民。

子どもだって、一人前！



- ② わたしたちの「願い」は、権利につながっている
「友達と遊びたい」「学校に行きたい」
「安心して過ごしたい」「話を聞いてほしい」
そんな当たり前の願いも、子どもの権利につながっている。

いつもの生活の中に、権利がある



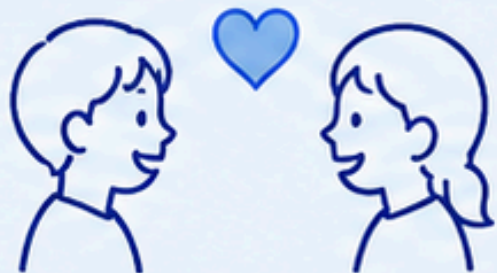
- ③ 「意見」は、上手に話せなくてもいい
言葉だけが「意見」ではない。
表情、態度、泣くこと、絵なども、
その人の気持ちを伝える方法。

うまく言えなくても大丈夫



- ④ 大切なのは「聞いてもらえること」
「言っていいよ」だけでなく、
安心して話せて、ちゃんと聞いてもらえることも大切。
大人が勝手に決めるのではなく、
まず本人に「どうしたい？」と聞いてみる。

言える + 聞いてもらえる



そして、みんなの権利がぶつかったときは——
「自分はこうしたい」を伝えて、
相手の気持ちも聞きながら、話し合っていく。



第2回をふりかえろう！ みんなから、こんな声が出ました

同じ話を聞いても、感じることは人それぞれ。
みんなの気づきを集めると、こんなことが見えてきました。

① 「意見」って、 話すことだけじゃないんだ！



- 赤ちゃんも、泣いたり笑ったりして気持ちを伝えている
- 言葉でうまく話せなくても、表情や態度で伝えられる
- 話すのが苦手なら、文章など別の方法があってもいい

♡ いろんな伝え方があっていい

② 安心して話せることが大切



- 自分の意見をジャッジされずに聞いてもらえると、ほっとする
- 聞いてもらえないことが続くと、だんだん話さなくなるかもしれない
- 小さい頃から否定されずに話せることが大切
- 聞く側の姿勢や、話しやすい雰囲気も大切

♡ 「言っているよ」だけではなく、「聞くよ」も大切

③ もっと、いろんな人と話してみたい！



- 他のグループの意見も聞いてみたい
- 高校生から「小学生や中学生とも交流したい」という声
- 大人からも「子どもたちの意見をもっと聞きたい」という声
- 一人ひとり、もっと話したそうな様子もあった

♡ ちがう世代・ちがう考えの人とも話してみたい



だから、この市民会議では——

「正しい答え」を出すことより、
一人ひとりの「私はこう思う」を持ち寄って、
お互いに聞き合うことを大切にします。

第3回へ →

みんなの声と“条例”は、
どうつながるんだろう？